

笙ガ岳花ハイク／雪の殿堂

鳥海山サマースキー

工業3回生（S43卒）渡辺五郎

山スキー仲間に「今年は6月に鳥海の心字雪渓滑りに行くぞー」とシーズン初めに宣言、一番近い記録を確認する12年5月と09年6月に伏拝岳南面を滑っていた。東北地方が梅雨に入ったが、幸い梅雨前線が北上、滝ノ小屋の下に続く道路の開通を確認出来たので、1泊2日で初日の6月18日に未明に福島を発ち、鳥海ブルーラインから花で知られている笙ガ岳で花見ハイクと残雪スキーでウォーミングアップをする。



風に吹かれるヒナザクラ

鉢立を8時過ぎに登り始めるとシラネアオイが現れて正面に新山、暫く歩き残雪が現れて賽の河原、笙ガ岳3峰に向かうと花達が迎えてくれる。平日だが好天なので花を目当てのハイカーが多く訪れている。



イワイチョウも現れる

花の見どころが沢山ある3峰から2峰と続き本峰、笙ガ岳（1635M）に向かう。



ミヤマキンバイが咲く笙ガ岳



ハクサンイチゲの咲くプロムナード

御浜の西面でスキーを楽しめるかと考えていたが残雪が少なく、結局登った雪上ルートでの短時間の滑りとなった。2時10分下山、国民宿舎大平山荘で入浴後に麓の国道7号線「道の鳥海ふらっと」で車中泊となる。

2日目の19日、午前3時に移動開始、誰もいない滝ノ小屋下の駐車場を4時45分に出発、重くなったスキー板と靴を付けたバックパック背に歩き始める。滝ノ小屋手前の荒木沢には橋脚だけで橋が架かっておらず、慎重に渡渉するが流れに入る前後の残雪が薄く残り、安全なポイントを探す。ここ以外は問題なく、ただ黙々と歩くだけだった。



立派な滝ノ小屋、山開きは7月

小屋裏の固い雪渓を経て、夏道の取り付きを探して八丁坂を登る。雪解け後で花が多く咲き始めていた。重い荷のバックパック、背に負う時に「うわー、重い！」と感じるが歩き始めると登りに夢中になり忘れてしまう。忘れてしまうしか無いノダ！



八丁坂の自画像

歩き始めて2時間半、残雪の始まる平坦な河原宿に到着する。ここまではスキー板にテレブーツを取り付けて来たが、テレブーツにアイゼンを取り付けての雪渓歩きとなる。



心字雪渓が現れる！



夏雲が影を映す心字雪渓

1 時間余り雪渓を歩き標高 1920M の雪渓上端、再びハイキングシューズに履き替える。ここからは背にはバックパックだけなので楽になるが、残雪の残りが解け低灌木が起き始めており暫く困難な登りだがそこを過ぎるとミヤマキンバイが多く咲く乾いたトレールとなる。海拔 2120M の伏拝はもうすぐだ！急がずに休み休み登ると御浜からの扇子森、文殊岳と外輪山を経るルートに分岐点に到着、歩き始めて 6 時間 10 分、伏拝岳山頂標識があった。



前日の笹ガ岳、東面は残雪が多い



伏拝岳山頂と新山

乾いた風が心地よく吹く外輪山、長居は出来ない。どこかで聞いた「劔岳、岩と雪の

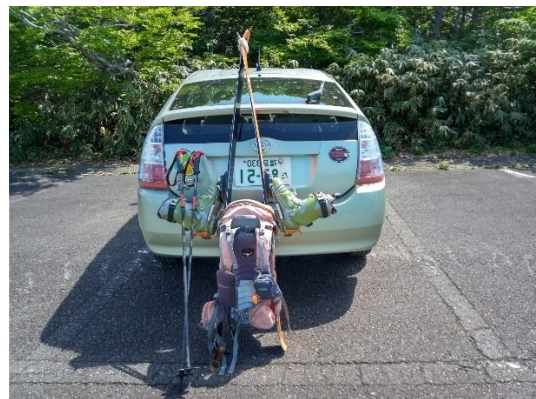
殿堂」、さあ滑るのだ「雪の殿堂、鳥海」を！

この時期特有の溝はまだ出来ておらず小さなスプーンカット状態、標高差 400M を楽しむ。雪渓下部でウロコ板のテレマーカーが繰り返して滑り、登っていた。河原宿で休んでいたら滑りを終えて下って来た。秋田市からの若者、昨年から通い始めたと話していた。



河原宿前の流れで板を洗い滑り納め

今シーズンの山スキー、最後のタスクを終える！再びバックパックに板と靴を取り付け駐車場に向かう。



駐車場到着、午後 2 時 15 分

帰宅し山日記を確認、12年5月20日は滝ノ小屋下の車道の途中、スキールートของ宮様コース近くから車道を歩き。滝ノ小屋を経て往復する、所要時間は7時間15分。
09年6月27日は駐車場から6時間50分、若くて馬力があり早かった。
今回は9時間半、16年前の同コースの記録に+2時間40分となった。「根性試し」の山行、49年生まれの小生だが、まだまだ山を歩いて滑り続けよう！

2025年6月18～19日の記録